つどい TSUDOI

豊富な話題飛び交う

秋中14日会（昭和21・22年卒）

毎年開催している秋中14日会は、今年度も4月8日、東京・新宿の小田急センチュリーサザンタワーを会場に開催しました。清々しいお天気の中、会場ホテルの22階より遥かに高い88歳の米寿の頂から豊富な話題が飛び交い、笑い声の尽きぬ楽しい会となりました。

この会が誕生したのは昭和36年1月14日のことで、昭和21卒と22卒の同期が旧制秋田中学卒業の合同の同窓会として年に一度開催し、今日に至っています。会の最後は秋高校歌と秋田県民歌を声高らかに歌い上げ、散会しました。

（和田　明 記）

“卒業60周年・傘寿”祝う

昭和33年卒同期会・秋高三三会

9月6日（木）、秋田市のホテルメトロポリタン秋田で49人（県外から10人）が集い、今年の例会、祝う会を開催。齊藤信行幹事の司会で始まり、物故者（128人）への黙祷、校歌斉唱、会務・会計報告が行われ、承認。全員そろっての記念写真撮影。工藤雄一幹事による鎮魂歌「花切手」独唱。

台風21号をかいくぐって兵庫県明石市から出席の勝平良治氏による乾杯で祝宴はスタート。元気な会員・佐々木信夫氏【昭和31年7月県予選でのノーヒットノーラン記録達成できたことを、今年再確認できた喜び】、高島清子氏【歌集『薔薇は静かに』初めての発刊の喜び】、菅原英一氏【6月、東北6県囲碁大会で最年長出場での優勝の喜び】の活動が紹介され、共に喜び、いっぱいの元気をいただきました。そして、中泉俊堯住職（乗福寺）からありがたいお話を伺い、大いに勇気づけられました。女性会員7人の出席もあり、多くの方々としばらくぶりに一堂に会し、数々の野球談話もあり賑やかに懇親を深め、節目を迎えることができたことに感謝し、喜び合いました。記念品として“特製ボールペン（母校名入り）”を贈呈。盛り上がる中、全員で校友会歌を力強く斉唱。脇坂良子幹事の“元気で又お会いしましょう”との力強い宣言で閉会。

未知なる80代への思いを馳せながら、再会を約して会場を後にしました。

（佐藤 満雄 記）

“天上はるかに――”

昭和49年卒東京同期会・秋友会

9月1日（土）、東京・水道橋駅そばのホテルを会場に昭和49卒東京同期会を開催しました。

21回目となる今回は足元の悪い中、恩師三船新次先生と同期30人（秋田から佐藤悦紹君と土門孝彰君）が集合し盛況な会となりました。

冒頭、8月に逝去された中山吉富先生に黙とうを捧げ、献杯。その後は各人が近況を語り、現役としての活躍や社会貢献、定年後の冒険、今後の人生ビジョンについて歓談。短い時間ではありましたが、価値観を共有できる喜びは秋高時代の連帯感ならではのものでした。

締めは恒例の校歌斉唱、応援団長荘司裕君による腹いっぱいのエール。“ああ友　桜の旭日ににほふ”―想うは故郷、忘れがたし。巣立って今年で44年、志を果たしていつの日にか帰らん。

（進藤　力 記）

支部の若返りに明るさ

にかほ支部

にかほ支部総会は5月18日、にかほ市平沢のホテルエクセルキクスイで開催された。支部会員14人に加え、在京にかほ会の大平温会長（昭和33卒）がわざわざ参加され会を盛り上げてくれた。

同窓会からは佐藤悦紹企画委員長に参加いただき、母校及び同窓会の近況を紹介していただいた。

当日は県中央部が豪雨のため、全ての公共交通機関が運休する中、クルマを調達され、よく参加していただき感謝している。

当支部は年々高齢化が進んでいるが、今年は3人の平成卒業生が参加され若返りもみられた。斉藤修一幹事（昭和34卒）の歓迎の挨拶・乾杯の音頭で懇親会が開始。大平温、鈴木光一（昭和55卒）、斉藤貴之（平成15卒）の各氏から在校時の思い出や近況報告があった。楽しい懇談の時間も忘れ盛り上がり、最後に高らかに校歌を斉唱し、来年の再会を約束し散会した。（事務局長・工藤兼勝＝昭和33卒 記）

❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返ししません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉